

# JFBP のオンライン日本語教師ネットワークの育成、 その後

林敏夫（国際交流基金ブダペスト日本文化センター）  
toshio.hayashi.jp@gmail.com

## 【要約】

本稿では、日本語教育連絡会議での発表をもとに、国際交流基金ブダペスト日本文化センターが実施している中東欧における日本語教育関係者のネットワーク育成について、2016年度の同じく本連絡会議で村上吉文日本語教育アドバイザーによって発表された内容のその後の進捗状況を紹介する。ネットワーク育成のためのオンライン・ツールは日進月歩の発展を見せているが、今後はそれぞれのツールの特性を活かした対応が求められる。

## 1. はじめに

中東欧地域における日本語教育は、国際交流基金の「海外日本語教育機関調査」報告書によれば、高等教育機関の学習者が多数を占め、国によっては学校教育以外の教育機関での学習者も一定数存在するという状況である。実際に各地を訪問して教師と意見交換を行ない、教師会の活動を見聞するかぎりにおいては、こうした状況にも納得がいくが、一方で、弁論大会の上位入賞者に独習者が食い込んできたり、継承語としての日本語教育が進展しているという状況を目にしたりと、近年非常に多様化が進んでいると実感せざるを得ない。

国際交流基金ブダペスト日本文化センター（以下、「JFBP」）は、こうした多様化する日本語教育の状況に対応するために様々な情報発信を行なっており、各種のソーシャル・メディアを利用しながら中東欧全域の日本語教育関係者のネットワークを育成する業務を実施している。特に、筆者の前任の村上吉文日本語教育アドバイザーは、日本語教育界におけるソーシャル・ネットワーキング・アプローチの第一人者ということもあり、こうしたネットワークの育成を急ピッチで推進してきた。その成果は、村上（2016）に詳述されている。その後任である筆者は、ソーシャル・メディアに関する多少の知識は有しているものの、それを業務に活用できるような取り組みをこれまで行なったことがなかったため、これを引き継ぐことはかなりの負担であった。それに加え、この1年余りのICTの急速な展開は想像をはるかに超えるものであり、思いっただけでも、ハングアウトとYouTubeの機能変更、Googleサイトのアップデート、Google クラスルームの機能変更、そして、Zoomがこれほど浸透してくる状況は思いもつかぬものであった。JFBPのオンライン研修にハングアウトではなく、Zoomが使用されるようになったのは、筆者の赴任後のことである。さらに、Slackも様々な場面で使用されるようになってきている。それと同時に、2018年5月よりGDPR（EU一般データ保護規則）が適用開始となり、これまでGoogleフォームを活用してきた分野では対応を迫られることになってきた。

では、こうした状況を受け、JFBPのネットワーク育成事業はいかに変化してきたのであろうか。項

目ごとに現状を紹介していきたい。

## 2. JFBP の取り組む教師間ネットワーク育成の現状

### 2. 1 Facebook グループ

村上 (2016) によれば、2 年前の JFBP の実施している事業においてもっとも活発に動いているのが中東欧の日本語教育機関関係者のコミュニティである Facebook の「いいね！中東欧の日本語教育」であった。筆者はこの管理者を引き継ぎ、2016 年 12 月の時点で 297 名であった参加者が、2018 年 12 月時点で 338 名になった。これは非公開グループで、参加の申請があっても中東欧の日本語教育に関係がない申請者の参加は認めていない。

内容的には、JFBP からの情報配信がもっとも多く、JFBP の主催事業や共催事業のお知らせ、教師向けとしては国際交流基金日本語国際センターの「日本語教育通信」や「みんなの教材サイト」等の新着記事の紹介、学習者向けの教材としては国際交流基金関西国際センターの「まるごと」や「ひろがる」等の更新記事の紹介、そして、それ以外の日本の社会、文化に関する様々な情報を共有している。

中東欧地域における日本語教育関連の Facebook グループは様々なものがあるが、筆者が管理者の一員として管理しているグループは、上記の他に、ハンガリーで作成され、JFBP 日本語講座でも使用されている日本語教材『できる』に関連して、『できる』で教える日本語教師」という非公開グループがある。こちらは 2018 年 12 月の時点で 43 名の参加者がいる。内容的には上記の「いいね！中東欧の日本語教育」グループとほぼ同様のものを情報配信しながらも、教材の扱い方や教材に合わせて作成している副教材の紹介なども行なっている。

JFBP は、ハンガリーを含む中東欧計 13 か国を活動範囲とする広域事務所として位置付けられており、筆者は各国の専門家や教師によって作られた Facebook グループにも参加させてもらい、様々な情報交換を行なっている。教師向けのグループとしては、ブルガリアの「ブルガリア日本語教師連絡会」(非公開、55 名)、ポーランドの「ポーランド南部日本語教師の会」(非公開、23 名)に参加し、上記と同様の JFBP からの情報配信を積極的に行なっている。

日本語教師がゼロ、またはごく少数のコソボとモンテネグロでは、日本語学習者向けのグループがあり、「Mëso japonisht në Kosovë. コソボで日本語」(公開、162 名)、「У ч и ј а п а н с к и у Ц р н о ј Г о р и ! モンテネグロで日本語！」(公開、12 名)に参加している。これらのグループ・メンバーは日本語学習者ということもあり、日本文化に関する興味深い情報や e ラーニングの学習ツールなどに重点を置いて配信を試みている。特にコソボは、日本語教育機関、日本語教師がゼロであるにもかかわらず、メンバーが熱心に活動しており、筆者からの情報配信には即座に「いいね！」ボタンが押される。

また、教師と学習者の混合のグループとしては、ハンガリーの「ELTE 日本学科 日本語・日本文化研究 ELTE Japanese Studies」(非公開、485 名)、「ELTE 日本を楽しむ Enjoy Japan」(非公開、351 名)、クロアチアのザグレブ大学の教師と学生を中心とした「Japanologija Zagreb, Japanology Zagreb」(公開、488 名)、さらにバルカン地域のブルガリア、ルーマニア、セルビア、マケドニア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの各国の大学生が参加するサマーキャンプの参加者によって作られた「バルカン半島日本語サマーキャンプ 2017」(非公開、66 名)にも参加させてもらっている。また、担当地域ではないが、カザフスタンの教師と学生による「カザフスタン日本語コミュニティ」(非公開、413 名)にも管理者の要請を受けて参加している。情報交流の面では、「ELTE 日本を楽しむ Enjoy Japan」、

「Japanologija Zagreb, Japanology Zagreb」、「カザフスタン日本語コミュニティ」が活発に活動しており、日本語学習者対象の、日本文化に関する興味深い情報や e ラーニングの学習ツールなどを中心に情報の配信を試みている。

Facebook の場合、国や地域を超えたグループが簡単に作成できるので、様々な知見を得たり、中東欧の日本語教育事情を周知してもらうためにも、様々なグループに参加して情報交流を行なっている。日本語教師のグループとしては、韓国の日本語教育関係者による「日本語教師 in 韓国」（非公開、113 名）、国際交流基金の派遣専門家による「裏さくらよ永久に（仮称）」（非公開、254 名）、「職員室（日本語コミュニティ教師チーム専用）」（非公開、150 名）に参加し、教師向けのコンテンツをシェアしている。また、学習者のグループとしては、「The 日本語 Learning Community」（非公開、47, 231 名）、「Learn Japanese with Tae Kim」（非公開、37, 097 名）に参加し、学習者向けのコンテンツをシェアしている。これらのグループは、いずれも活発な活動が見られ、特に学習者のグループでは、メンバー数が多いということもあり、コンテンツによっては、シェア直後に 300 を超える「いいね！」ボタンが押されることもある。

## 2. 2 Google グループ（メーリングリスト）

Facebook では情報がスルーされてしまうことも多いので、より重要度の高い情報や研修の案内等については、メーリングリストでの配信を試みている。

現在、筆者がオーナーになっているのは、中東欧地域の教師を対象とした「JFBP 中東欧日本語教育 ML」（75 名）、2018 年 2 月の「中東欧日本語教育研修会 2018」の参加者を対象とした「中東欧日本語教育研修会 2018」（48 名）、国際交流基金から中東欧地域に派遣されている専門家及び指導助手による「JF 中東欧派遣者 2018」（8 名）の 3 グループである。

この他に、ブルガリアの日本語教師を対象とした「ブルガリア日本語教師連絡会」（24 名）、ヨーロッパ日本語教師会の「ヨーロッパ日本語教師会（AJE）」（549 名）にも参加している。

## 2. 3 Slack ワークスペース

2018 年より新たに取り入れている SNS のツールとしては、Slack ワークスペースがある。これは、2018 年 7 月に国際交流基金パリ日本文化会館で実施された「2018 年度 欧州日本語教育研修会」にオンライン参加した際に初めて利用した。使い勝手としては、Facebook とメーリングリストの中間に位置する感覚で、閉じた空間で特定のテーマの共有を行なう際には便利なツールである。

現在、上記の研修会の参加者による「2018 欧州研修」（43 名）、村上吉文専門家が実験的に主催する「ぼうけんかのひみつきち」（60 名）に参加しており、2019 年の中東欧日本語教育研修会へ向けて、オーナーとしてワークスペースを作成する予定である。

## 2. 4 中東欧日本語教育プラットフォーム

Facebook ユーザーでない日本語教育関係者が容易に参加できるようなプラットフォームとして、JFBP は 2016 年に「中東欧日本語教育プラットフォーム」（以下、「プラットフォーム」）（<https://www.ceeujep.org/>）を開設した。村上（2016）に紹介されているとおり、このプラットフォームには、個人と機関（学校）の「データベース」、様々な研修や自己紹介等の「ビデオ」、Facebook やメーリングリストで配信した重要な情報に関する「情報共有掲示板」、情報を求める参加者が質問を

書き込む「日本語教育 Q&A」等のカテゴリが設けられている。

「データベース」については、個人の登録者が、2016年12月の74名から2018年12月の83名に増加した。「ビデオ」については、同じく59本から90本に、「情報共有掲示板」については、4本から84本に増加した。

## 2. 5 JFBP 中東欧日本語教育オンライン研修

中東欧全域の日本語教育関係者のネットワークを育成するという業務については、以上のような様々なツールを用いながら実施してきたが、研修そのものをオンラインで実施する事業も推進している。当初はハンガアウトを使用していたライブ配信と研修後にもアクセスできるオンライン配信を行っていたが、2018年より Zoom を使用したライブ配信やそれを録画したオンライン配信を開始した。

村上(2016)執筆当時の2016年12月までに、11回実施され、合計視聴回数は2018回ということであったが、その後の2017年4月から2018年12月までには、ハンガリー向け2回、中東欧全域向け2回の4回が実施され、この4回の合計視聴回数は1714回となっている。

なお、こうしたオンライン研修を企画するにあたっては、筆者自身のスキルを上げていかなければならないために、可能なかぎり各種のオンライン研修に参加している。ポーランド及びブルガリアの教師会への Zoom での参加、国際交流基金パリ日本文化会館で実施されたリアルとオンラインのハイブリッド型研修への参加、Zoom で実施された世界各地の日本語教師による EdCamp、同じく世界各地の日本語教師によるビブリオ Bar (ビブリオバトルのようにチャンプ本は決めないタイプの本の紹介)、そして、月3回のペースで Zoom で実施されている「著者と読む読書会『日本語教師のための CEFR』」等々である。

## 3. JFBP の取り組む教師間ネットワーク育成の今後

### 3. 1 現状のネットワークへの気づき

十分なスキルもないままに、これまでオンラインによる教師間ネットワーク育成に取り組んできたわけであるが、ここでいくつかの問題点が浮かび上がってきた。

まず、ウェブ上の情報交流に関しては、どうしても JFBP 側からの一方向の情報提供がほとんどで、なかなか双方向の発信にならないという点がある。Facebook では「いいね！」ボタンが押されることも一つの目安にはなるが、学習者のグループに比べて教師のグループではこれが少ない。Facebook に関しては、教師の利用率が低いのではないかという印象を受ける。オンラインのやりとりで、唯一例外を実感したのは、「中東欧日本語教育研修会 2018」というリアル研修会へ向けてのメーリングリストであった。ここでは、当方から1か月前より週替りで課題を出したために、これに対する活発なやりとりがメールを介して行なわれた。届くメールが多すぎて困ったという不満の声も上がったほどである。

次に、オンラインの場合、積極的に関わるのが、結局はいつも同じメンバーになってしまうということがある。特に Facebook をよく利用している人ほどオンライン研修にも参加する傾向が強い。これは国境を越えて見られる現象であるので、今後ますますオンラインに積極的な層と消極的な層とのあいだで二極分化が進んでいくのではなかろうか。

また、特に Zoom 等の会議システムの場合、日本語非母語話者の教師がほとんど参加しないという現状がある。やはり、非母語話者にとっては、小グループに分かれてオンラインで日本語でのやりとり

を行なうことへのハードルが高いように思われる。

一方で、様々なツールによるネットワーキングを経験してきて、リアル参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド型の研修では、マンパワーは必要となるものの、リアルの場にもインパクトを与えるオンラインならではの関わりというものがあることが実感できた。例えば、「2018年度 欧州日本語教育研修会」において、ドラマ技法の研修のグループ発表を行なう際に、リアルの場では実際にドラマを演じるのであるが、オンラインの場合はテレビの枠組みを利用したものとなる。これがリアルの会場に映し出されたときに、リアルの参加者たちからは実際にテレビの画面を見ているリアリティーを感じたという評価があった。あくまでロールプレイにとどまってしまう実演以上に、画面を通じたインタビュー形式の番組に対するインパクトが大きかったのである。

また、課題を通じてやりとりが活発化される際に、大量のメールに悩まされるメーリングリストの代わりに Slack を利用すると、情報の整理もでき、効果的であることがわかった。次回の中東欧日本語教育研修会には早速取り入れていくことを考えている。

### 3. 2 今後のネットワークへ向けて

これまでに JFBP が行なってきた中東欧における日本語教育関係者のネットワーク育成のための業務として、村上（2016）以降の動向について述べてきた。この 2 年間でオンラインのネットワーキングに関するツール自体も大きく変化している中で、今後はよりツールに適合した情報交流を行なう必要があるのではないかと考えている。

日本語教育の最新動向や、授業に使える日本の文化や社会に関するホットな話題については、鮮度が落ちないうちに、まずは Facebook で発信する。そうした情報の中で、特に研修や留学に関する情報や、国際交流基金日本語国際センターの「日本語教育通信」や関西国際センターの e ラーニング関連の情報等については、じっくりと読んでもらう必要があるので、メーリングリストで配信する。さらに、ピンポイントでの情報提供やオンライン研修の呼びかけについては個別のメールで対応していくというように、ツール別に濃淡をつけた情報配信を行なっていくことが必要であろう。

また、研修に向けてネットワーキングを育成していくというような明確な目標があるグループでの情報交換には、Slack が適しているので、今後その導入を試みる。

一方で、2016 年に開設した「中東欧日本語教育プラットフォーム」については、使い勝手の面で必ずしも理想的とは言えない部分もあるので、ここには重要な情報を集積し、ここに来ればそれにいつでもアクセスできるようなアーカイブとしての役割に特化させていくことが肝要ではなかろうか。

オンライン研修のためのツールとしては、Zoom の使用頻度が高まっているが、講義形式を中心とした内容になる場合は、参加のハードルを下げるために、ハンガアウトを取り入れていくことも視野に入れていく必要がある。また、JFBP の主催事業であるシンポジウムや日本語プレゼンテーションコンテストについては、今後もできるかぎりライブ配信を行ない、アーカイブとして「中東欧日本語教育プラットフォーム」で共有していく。

オンラインのネットワーキングについて、ツールの進化には著しいものがあるが、問題なのは、いかに多くの教師を巻き込んでいくかという点である。特に日本語非母語話者の若手教師に対するアプローチを強化していく必要がある。2018 年 9 月に実施した「JFBP 中東欧日本語教育オンライン研修」は Zoom を使用したオンライン研修であったが、クロアチアではその時間帯に教師会のメンバーを集め、教室の大画面で共同で参加したということがあった。若手のクロアチア人教師も 3 名参加していたの

で、このような方法であれば、ハードルも下がるようである。また、日本語非母語話者の若手教師は、日本で行なわれる研修等に参加する機会もあるので、その成果を気軽にオンラインで発表できるような機会を設けていけたらとも考えている。

#### 4. おわりに

日本語教育界におけるソーシャル・ネットワーキング・アプローチの第一人者である村上吉文専門家の推進してきたネットワーク育成事業を引き継ぐのは容易なことではない。しかし、日本語教育界を取り巻く状況は急速に変化しており、今後はこうしたオンラインの教師間のネットワークがさらに重要なものになっていくのは確実であろう。

JFBP としては引き続きこのネットワーク育成事業を推進していくことになるが、「冒険家」ではなく、「普通の」教師でも引き継いでいけるような体制づくりを考えていくことが今後の課題である。

#### 参考文献

- いいね！中東欧の日本語教育<<https://www.facebook.com/groups/Dunaj.Nippon/>> (2018年12月21日)
- 裏さくらよ永久に(仮称)<<https://www.facebook.com/groups/728682367231380/>> (2018年12月21日)
- カザフスタン日本語コミュニティ<<https://www.facebook.com/groups/kazjpcommunity/>> (2018年12月21日)
- 国際交流基金(2017)『海外の日本語教育の現状 2015年度 日本語教育機関調査より』国際交流基金職員室(日本語コミュニティ教師チーム専用)
- <<https://www.facebook.com/groups/The.Nihongo.L.C.TeachersRoom/>> (2018年12月21日)
- 中東欧日本語教育プラットフォーム<<https://www.cceujep.org/>> (2018年12月21日)
- 『できる』で教える日本語教師<<https://www.facebook.com/groups/265367106987042/>> (2018年12月21日)
- 日本語教師 in 韓国<<https://www.facebook.com/groups/yuruitsunagari/>> (2018年12月21日)
- バルカン半島日本語サマーキャンプ2017<<https://www.facebook.com/groups/1928007514142583/>> (2018年12月21日)
- ブルガリア日本語教師連絡会<<https://www.facebook.com/groups/bulgaria.japanese.teachers/>> (2018年12月21日)
- ポーランド南部日本語教師の会<<https://www.facebook.com/groups/319560478539860/>> (2018年12月21日)
- 村上吉文(2016)「JFBPのオンライン日本語教師ネットワークの育成」『日本語教育連絡会議論文集 Vol29』, 10-17.
- ELTE 日本文学 日本語・日本文化研究 ELTE Japanese Studies
- <<https://www.facebook.com/groups/826519867473734/>> (2018年12月21日)
- ELTE 日本を楽しむ Enjoy Japan<<https://www.facebook.com/groups/1712176298995667/>> (2018年12月21日)
- Japanologija Zagreb, Japanology Zagreb<<https://www.facebook.com/groups/212523675746/>> (2018年12月21日)
- JFBP 日本語教師研修<[https://www.youtube.com/playlist?list=PLPpzOhcxrj-yT8Vv7pHza0Ac\\_uqam6iKY](https://www.youtube.com/playlist?list=PLPpzOhcxrj-yT8Vv7pHza0Ac_uqam6iKY)> (2018年12月21日)
- Learn Japanese with Tae Kim<<https://www.facebook.com/groups/214419481973565/>> (2018年12月21日)

Mëso japonisht në Kosovë. コソボで日本語<<https://www.facebook.com/groups/1618971791675549/>> (2018 年 12 月 21 日)

The 日本語 Learning Community<<https://www.facebook.com/groups/The.Nihongo.Learning.Community/>> (2018 年 12 月 21 日)

У ч и ј а п а н с к и у Ц р н о ј Г о р и! モンテネグロで日本語!  
<<https://www.facebook.com/groups/NihongoMontenegro/>> (2018 年 12 月 21 日)